

花王のアプローチ

従業員が安心して働くことができる職場環境を整備するため、労働安全衛生活動に関する基本的事項を定めています。
また、従業員の安全・健康を確保する活動を行なっています。

社会的課題と花王が提供する価値

認識している社会的課題

化学プラントでの事故や、自然災害が多く発生している昨今、大規模化学プラントを有する企業に対する安全操業への要求はますます高まっています。

花王が提供する価値

花王レスポンシブル・ケア(RC)方針に「労働安全衛生」の活動方針を定め、作業・機械・化学物質のリスクアセスメント活動、健康診断の確実な実施とフォロー、メンタルヘルス対策に注力して活動し、花王グループで働くすべての人の安全・健康の確保に努めます。

健康・安全で快適な職場環境を形成することで働きがいのある職場を提供し、従業員本人や家族に安心を提供します。

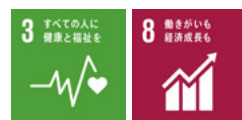
「2030年のありたい姿」の実現に関わるリスク

- ・重篤な災害や作業環境不良により発生する業務上疾病による操業停止リスク
- ・上記による社会からの信頼損失リスク

「2030年のありたい姿」の実現に関わる機会

徹底したリスクアセスメントにより、すべての社員の労働安全衛生を脅かす要因を積極的に排除し、安全で安心して健康に働ける職場づくりを実践します。

貢献するSDGs



方針

花王は「労働安全衛生」の活動方針を、花王レスポンシブル・ケア(RC)方針にて「労働災害の撲滅、潜在的危険性の低減を図るとともに、快適な職場環境の形成と従業員の健康増進に努める」と明確に定めています。事業活動に伴う事故や災害から社員を守り、安全で安定した操業を維持するため、事故・災害の発生状況や原因を把握・分析し、分析内容はグループ全体で共有し、再発防止につなげています。



→花王レスポンシブル・ケア方針
www.kao.com/jp/corporate/sustainability/environment/statement-policy/policy/responsible-care.html

体制

花王レスポンシブル・ケア方針および推進体制や活動については、下記のページに掲載しています。



→P195「ガバナンス>レスポンシブル・ケア活動」

教育と浸透

各事業場で社員・派遣社員を対象に労働安全衛生に関する教育計画を立て、実施しています。入社時・配転時の配転先での安全衛生教育は必ず行なっています。また、特別教育の必要な業務をリストアップし、必要な教育を実施しています。

教育を行なうことで、職場での安全衛生に関する情報を共有し、安全衛生の目標に向けて活動することができます。

さらに毎年、社長からの安全メッセージと安全ポスターを発行し、安全意識の向上を図っています。



→ P184「コーポレート・カルチャー>保安防災/教育と浸透」

ステークホルダーとの協働

生産・研究の事業場や物流拠点では、協力会社の社員の安全も確保するため、協力会社とともに安全や防災行事を行なっています。また、毎月、協力会社との間で、花王グループ内の労働災害事事故事例とその対策などの安全に関する情報を共有し、協働で安全活動を推進しています。

また、花王ロジスティクス部門でも毎月、拠点の配送委託会社との間で安全・品質の会議を開催しています。

さらに、毎年全国の配送委託会社が参加する情報交換会を開催し、交通事故撲滅活動にご協力いただいています。

中長期目標と実績

中長期目標

花王は2020年にグローバルでトップレベルの安全衛生を満たす企業になることをめざしています。

社員、協力会社ともに、死亡・機能損失災害「ゼロ人」、休業度数率「0.10以下」、業務上交通事故については、過失100%人身事故件数「ゼロ件」を2020年目標としています。

中長期目標を達成することにより期待できること

コスト低減あるいは収益拡大

すべての従業員が健康に働くことで、事業活動が正常に行なわれ、不要な経費発生を抑え総合的にコストの低減、収益拡大につながります。

社会に及ぼす効果

すべての従業員が健康に働くことで、事業活動が正常に行なわれ、安定した商品供給ができます。また、製品価格の安定化に貢献できます。

2018年の実績

「労働災害の撲滅」「快適な職場環境の形成と従業員の健康増進」の2つの視点から活動を推進しました。

具体的には「労働災害の撲滅」として、既存設備に対する作業・機械のリスクアセスメントの推進、ヒヤリハット提案による改善の推進、新設設備の稼動前リスクアセ

スメントと安全検収、設備安全対策とルールの周知・遵守による設備災害の防止、階段などでの転倒転落防止、業務上の交通事故の防止などに注力しました。

「快適な職場環境の形成と従業員の健康増進」としては、作業環境管理強化、健康診断の確実な実施とフォロー、

健康促進の活動、ストレスチェック、化学物質のリスクアセスメントを推進しました。

また、各事業場で定期的に行なう安全衛生委員会で、活動の予定や実績を報告し、従業員に周知しています。

2018年 目標と実績(花王グループ)

項目	指標	対象	2016年	2017年	2018年		
			実績	実績	目標	実績	
労働災害	死亡、機能損失災害※1(人)	社員+派遣社員(花王グループ)	0	1	ゼロ	0	
		内訳	日本	0	1	—	0
			アジア	0	0	—	0
			米州	0	0	—	0
			欧州	0	0	—	0
		協力会社(花王グループ)	0	0	ゼロ	0	
		内訳	日本	0	0	—	0
			アジア	0	0	—	0
			米州	0	0	—	0
			欧州	0	0	—	0
	休業度数率※2	社員+派遣社員(花王グループ)☑	0.67	0.55	0.20以下	0.77	
		内訳	日本	0.47	0.36	—	0.54
			アジア	0.31	0.34	—	0.19
			米州	3.20	3.57	—	4.18
			欧州	4.12	2.79	—	4.66
		参考:日本化学工業協会加盟会社 社員+派遣社員 協力会社(花王グループ)☑	0.35	0.36	—	—	
		内訳	日本	0.56	0.41	0.20以下	0.40
			アジア	0.65	0.55	—	0.55
			米州	0.13	0.10	—	0.11
			欧州	0.00	0.00	—	0.00
参考:日本化学工業協会加盟会社 協力会社	5.81	4.21	—	7.06			
参考:日本化学工業協会加盟会社 協力会社	0.54	0.49	—	—			
全災害度数率※3	社員+派遣社員(花王グループ)	1.96	1.87	1.08以下	2.43		
	内訳	日本	1.93	1.70	—	2.20	
		アジア	0.80	1.02	—	1.37	
		米州	4.79	5.95	—	8.36	
		欧州	6.33	6.15	—	6.86	

※1 機能損失災害: 負傷が治った時に障がい(障害等級5級以上)が残る災害

※2 休業度数率: 100万のべ実労働時間当たりの労働災害による死傷者数(休業1日以上および体の一部または機能を失ったもの)

※3 全災害度数率: 100万のべ実労働時間当たりの労働災害によるすべての被災者数(不休業災害を含む)

2018年 目標と実績(花王グループ)

項目	指標	対象	2016年	2017年	2018年		
			実績	実績	目標	実績	
労働災害	全災害度数率 ^{※3}	協力会社(花王グループ)		1.32	1.18	0.74以下	1.21
		内訳	日本	1.49	1.18	—	2.11
			アジア	0.77	0.71	—	0.40
			米州	0.00	0.00	—	0.00
			欧州	7.75	12.62	—	10.59
	強度率 ^{※4}	社員+派遣社員(花王グループ)		0.02	0.10	—	0.05
		内訳	日本	0.01	0.13	—	0.03
			アジア	0.01	0.01	—	0.14
			米州	0.10	0.08	—	0.06
			欧州	0.06	0.04	—	0.07
		参考:日本化学工業協会加盟会社 社員+派遣社員		0.01	0.04	—	—
		協力会社(花王グループ)		0.03	0.01	—	0.01
		内訳	日本	0.05	0.02	—	0.01
			アジア	0.01	0.00	—	0.01
			米州	0.00	0.00	—	0.00
	欧州		0.05	0.06	—	0.19	
	参考:日本化学工業協会加盟会社 協力会社		0.10	0.18	—	—	
	業務上疾病による休業者数(人)	社員+派遣社員(花王グループ)		—	—	—	0
		内訳	日本 [☑]	—	—	—	0
アジア			—	—	—	0	
米州			—	—	—	0	
欧州			—	—	—	0	
交通事故	過失100%人身事故(件)	販売・配送(日本)	24	11	0	16	
	過失0%以外百台率 ^{※5}		7.10	7.64	5.0以下	6.43	

※3 全災害度数率:100万のべ実労働時間当たりの労働災害によるすべての被災者数(不休業災害を含む)

※4 強度率:損失日数/のべ実労働時間×1000

※5 過失0%以外百台率:過失0%以外の交通事故件数(件)/保有車両台数(台)×100

2019年の目標

2019年は、引き続き事故・災害の発生防止に努めることを目標に活動します。なお、交通事故の目標は日本のみです。

2019年の目標(花王グループ)

項目	対象	指標	2019年目標
労働災害	社員・派遣社員	死亡、機能損失災害 ^{※1} (人)	ゼロ
		休業度数率 ^{※2}	0.16以下
		全災害度数率 ^{※3}	0.83以下
	協力会社社員	死亡、機能損失災害 ^{※1} (人)	ゼロ
		休業度数率 ^{※2}	0.14以下
		全災害度数率 ^{※3}	0.68以下
社員	業務上疾病による休業者数(人)	ゼロ	
交通事故	販売・配送	過失100%人身事故(件)	ゼロ
		過失0%以外百台率 ^{※4}	4.4以下

※1 機能損失災害: 負傷が治った時に障がい(障害等級5級以上)が残る災害

※2 休業度数率: 100万のべ実労働時間当たりの労働災害による死傷者数(休業1日以上および体の一部または機能を失ったもの)

※3 全災害度数率: 100万のべ実労働時間当たりの労働災害によるすべての被災者数(不休業災害を含む)

※4 過失0%以外百台率: 過失0%以外の交通事故件数(件)/保有車両台数(台)×100

具体的な取り組み

労働災害発生状況

2018年の社員・派遣社員の労働災害による被災者数は192人でした。そのうち休業被災者数は61人で、業務上の休業疾病はありませんでした。また、協力会社社員の労働災害による被災者数は36人で、そのうち休業被災者数は12人でした。

社員・派遣社員の労働災害の主な要因は、不注意や確認不足による「転倒・転落」61人、次いで「動作反動」によるものが28人、「激突」によるものが18人でした。「転倒・転落」災害が最も多いことから、転倒・転落災害の対策を中心に、活動を推進していきます。

化学物質のリスクアセスメント

花王の生産工場ではさまざまな種類の化学物質を取り扱っていることから、自然環境汚染リスクはゼロではありません。そこで、人や環境に及ぼす影響評価をし、リスク低減のための措置を行なっています。また、設備を増改築する際、事前に人や環境に及ぼす影響を評価しています。

これらはSAICMプロジェクトにて対応しています。

休業無災害表彰制度による安全意識の向上

2016年より休業無災害表彰制度を、さらなる安全意識向上を図るために海外の工場まで対象を拡大しました。

2018年は、海外3工場が表彰されました。

休業無災害表彰(2018年)

地域	社名・工場名	ステージ
中国	花王葫芦島錦星铸造材料	ステージ1(3年)
	花王(上海)化工	ステージ1(3年)
マレーシア	KPG(花王ペナングループ)	ステージ1(3年)

表彰基準

ステージ	表彰基準
1	3年
2	5年もしくは540万時間
3	7年もしくは810万時間
4	10年もしくは1,220万時間
5	15年もしくは1,830万時間
6	25年もしくは3,000万時間



中国:葫芦島のステージ1 達成の表彰



マレーシア:KPGのステージ1 達成の表彰

グローバルで安全スローガンを共有

グローバルでの安全意識の向上を目的に、2017年より安全ポスターを、海外拠点で現地語に翻訳。社長が登場する安全ポスターを国内・海外拠点に展開し、グローバルで共有しています。

2018年は標語をグローバルで募集し、その中から中国・胡芦島の標語を最優秀作として安全ポスターを作成しました。



最優秀標語の表彰(中国・胡芦島)

従業員の快適な職場環境

すべての職場を快適な職場環境にするよう努めるとともに、各国の作業環境基準を遵守するため、定期的に作業環境を測定し、職場環境の改善・維持管理を行っています。



社長が登場する安全ポスターを11カ国語で展開
(左上から時計回りに日本語、英語、中国語(簡体字)、ドイツ語)

Topic ロボットの導入による作業負荷軽減と効率化

2016年より、豊橋工場のフレキシブル多品種製造ラインにヒト型協働ロボットが設置され、人と協働して、製品の包装作業に従事しています。

ロボットは、時間を問わず業務に従事できるだけでなく、手を動かす作業(包装)と目で見える作業(ロット・品種検査)を同時に行なっても精度を保持するという特長があります。一方、人は、トラブルの復旧や傷・汚れ等の外観検査、製造ライン全体のバランスを見ながらの材料補充など、複雑・柔軟な判断が必要な作業を得意としています。それぞれが得意な分野を組み合わせることで、高効率な生産システムを構築できており、人の作業負荷軽減も実現しています。



ヒト型協働ロボット